



野素の価格安定補償制度
 に加入されている皆川清さ
 い(満願寺)にお話をうか
 がいました。

* * *

さやいげんと冬キャバ
 ツの両方に加入しています
 が、今年はいん
 げんの方は水害
 でだいぶやられ
 ました。主に
 堤外に作ってい
 たのですから、一
 出荷しただけで、後は全部

十 価

* * *

流されました。それに堤内の方も雨でやられました。野菜は米とちがって値動きが激しいし、今年のような天候不順だと出来が悪いので、本当に野菜作りはむずかしいと思います。

価格補償制度は
大いに助かります

昔は野菜の値が暴落すると、箱代もでないなんてともありましたが、価格補償制度ができて心強く思っている。一種の保険みたいなものですが、安心して野菜作りができますからね。

ここ満願寺は、満日白菜やきぢかばちなどよく知られているように、昔か

ら畑も減って、野菜作りも以前ほどではなくなりましてね。

これから冬キャベツの取入れが始まりますが、いま満願寺では約二町歩、四十トンくらいは作っているでしょうか。このキャベツですが、去年は大暴落しましてね、収穫しないで、畑

今年から冬キャベツも価格補償の対象に

六月下旬に俸給基準額二百六十八圓四十銭（一キログラム当たり）をだいたひ下回る二百十二圓くらゐに価格がさがつたことがあります。価格差補償が初めて適用されるわけでは、保証基準額との価格差の八〇％—一キログラムあたり約四十五圓の補償金が各加入者に支払われることになりました。

さやいんげんに
補償金を初適用
とところでこの制度への加入
状況ですが、六―八月がシー
ズンだったさやいんげんには
六十九名、これから最盛期を
迎える冬キャベツについては
いとるところ十五名が加入さ
れており、初年度としてはま
ずまずというところです。
このうちさやいんげんは、

に「ヘナルテ」(「罪異」)があるのをご存知でいうと、今年二反の減反が割当てられたのに一反しか消化しなかった場合、来年は二反十一反と三反の減反割当てがあるということです。ですから来年の当市の減反割当ては、約三百四十六ヘクタールにのぼる計算になります。

しました。もちろん強制ではなく、加えて、転作農家には、各種の補助を行ってきたところです。

**今年の達成率は
五九・七七％に**

当市での今年の減反達成率は、面積で百四十七・六ヘクタール、率にして五九・七七％でした。

ところでこの減反割当て

最上興

当市は

値くずれしても安心
価格補償制度もスタート

一方、「野菜価格安定補償制度」も今年から新しく始められた事業である。当初、稲作転換に伴う野菜の価格差を補償するものとしてスタートしましたが、その後、転作だけではなく、一般の畑作の野菜もその対象品目に加えることにしました。

とかく野菜の価格は変動が激しく、そのために安定供給を確保できないということがまま、ありました。そこで市（五千五百円）と農協（三千円）と流通センター（二千万円）の共同出資による基金を設け、その利息を運用して、野菜の価格が一定水準以下に下落した時は、その価格差を補償するという制度をつ



ベツも価格補償の対象

さやいんげんに
補償金を初適用
とところでこの制度への加入
状況ですが、六―八月がシー
ズンだったさやいんげんには
六十九名、これから最盛期を
迎える冬キャベツについては
いとるところ十五名が加入さ
れており、初年度としてはま
ずまずというところです。
このうちさやいんげんは、

に「ヘナルテ」(「罪異」)があるのをご存知でいうと、今年二反の減反が割当てられたのに一反しか消化しなかった場合、来年は二反十一反と三反の減反割当てがあるということです。ですから来年の当市の減反割当ては、約三百四十六ヘクタールにのぼる計算になります。

しました。もちろん強制ではなく、加えて、転作農家には、各種の補助を行ってきたところです。

**今年の達成率は
五九・七七％に**

当市での今年の減反達成率は、面積で百四十七・六ヘクタール、率にして五九・七七％でした。

ところでこの減反割当て

高の豊作-でも...

前年比 8 % の減収（見込み）に



豊年満作——それは、大昔からの私たち共通の願いでした。願いというよりは、悲願に近かったのかも知れません。その証拠に、いまも各地に五穀豊稷を願う郷土芸能が数多く残されています。

ところが最近のはちょっと様相が違ってきました。豊作を素直に喜べないような時勢になってきたからです。

今年からさらに強化された減反政策とその対応、そして今年のお米のでき具合いなどを紹介してみましよう。

配合は、種のお金無料
配布、果樹種の場合は、
苗木の場合には補助、さ
といものは五割は種代の
二〇％補助というよう
に、援助の手をさしの
べてきました。しかし、
もともと湿田のところ
に加えて、今年は六・
二六水害に見舞われた
ため、水に弱い作物は
ほとんど全滅という状
態で、転作のむずかし
さがあらためて痛感さ
れました。

ばりいます。これは五十一倍の二百四十七ヘクタールにの減反割当ての三・七四倍にあたり、市の水田面積の六・九%におよぶものです。なおこの減反目標面積は、今年から三年間固定したまま、来年も二百四十七ヘクタールの減反が割当てられています。

割当ては返上で
きないしくみ

この減反政策ですが、市としては基本的には反対の

ログラム上回る、記録的大豊作ということです。

しかし当市では、史上最高の大豊作どころか、米のできはあまり良くありませんでした。全体的に見た場合、五十二年にくらべて八%くらいのも減収になりそうです。

そのなかでも、越路早生は大幅な減収が予想されます。

いまのところ、五十二年にく

転作も六月 の雨で失敗

の期間は、今年から十年間となつていますが、減反目、標面積は、五十三、五四、五五五年の三年間は、全国で三十九万一千ヘクタールと発表されています。

当市への割当ては二百四十七ヘクタール

当市に配分された今年度の稲作畝かん目標面積は、

五十二年より
八%の減収に
史上最高の豊作」と新聞
などで報道されています。水
稲の全国作況指数は一〇八
(十月十五日現在)で、十ア
ール当たりの収量は四百九十
八キログラム。過去最高の昭
和五十一年の十アール当たり四

らべて、一七・一八%の減収が
見込まれています。これは、
七・八月の異常高温の影響で
つたから伸びず、九月に入
つてから稲が倒れたからです。
越路早生はほかの品種にくら
べて耐熱性が弱いため、刈割
木、腹白米などが多く出て品
質が低下し、減収につながり
ました。また六・二六水害の
影響も見のがせないところで

今年からさらに強化された生産調整

国の米生産調整政策は、八年前の昭和四十五年から始められました。

そして、国はこの政策をさらに強化するため、今年度から「水田利用再編対策」